

実践例「学習指導の深化・充実」

「課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善と充実」

I 学校名 えりも町立笛舞小学校【日高管内】

II 研究の概要

1 地域に根差した特色ある教育活動と極小規模校の強みを生かして

本校の校区であるえりも町の近浦・笛舞地区は、夏場のコンブ漁を中心に、第1次産業が生活の基盤となっており親子代々家業を引き継ぐ家が多い。地域・保護者が地域の学校を支える意識が非常に高く、学校の教育活動に対しても協力的である。

生活科や総合的な学習の時間、その他の行事等でも、地域に出かけたり地域の方が講師として来校したりする機会も多く、地域とのつながりはとても深い。全ての家庭の保護者が本校の卒業生であり、地元で育ち地元を支えていく意識とともに、新しい時代に求められる資質・能力を確実に身に付けていくことが求められている。

また、全校児童が18名という極小規模校の特色を前向きにとらえ、少人数だからこそ体験できる特色ある地域の素材を積極的に活用することと、授業改善においては、教科リーダーを中心に学習を進めることで、子どもたちの主体的な学びを促進する取り組みを行ってきた。

2 学校経営の基本

- (1) 個々の能力や良さをのびのびと発揮できる学校
- (2) 安心・安全な教育環境が整備された学校
- (3) 地域とともにあるみんなの学校
- (4) 教職員みんなで一つの方向を向いて
- (5) 教職員も達成感を感じて

3 学校教育目標

えりもの自然に生き、広い心とたくましさ、豊かな創造力をもつ笛舞っ子
「よく考え、深められる子 心ゆたかな子 たくましさをもつ子」

4 今年度の重点目標（目指す子供像～教科横断的に育成する資質・能力～）

- (1) 挨拶・礼儀
- (2) 自分から進んで取り組む力
- (3) 最後まで粘り強く取り組む力

5 今年度の具体の取組（課題との関連）

- (1) 資質・能力の重点 「読み・書き」を基盤とした学習内容の定着
- (2) 社会で生きる力 複式学級における学級・授業づくり
- (3) 豊かな人間性
 - ・人間関係を形成する態度の育成（挨拶や礼儀）
 - ・個に応じた多様な育ちをサポート
- (4) 健やかな体
 - ・客観的なデータを根拠にした通年の体力づくり（粘り強く）

Ⅲ 実践例

1 少人数を生かした地域での体験活動



(1) アイヌ文化体験

校区内に実写版「ゴールデンカムイ」のアイヌ料理監修を担当している人材が数年前より住むようになっていた。4月に地域の老人クラブの集まりでその人材と校長が対面した。少人数であることから、下記のような体験的な学習を行うことができた。

- ・職員で交流を持つようにした。オオバユリからでんぷんを取る体験をさせていただいた。
- ・高学年が、総合的な学習の時間で、アイヌの食文化を中心にインタビューを行った。
- ・オオバユリから採ったでんぷんの保存の仕方などを職員及び高学年が実物を見せていただき学んだ。
- ・年度末にPTAの行事として、親子アイヌ料理教室を行った。



(2) コンブボートによるえりも岬のアザラシ見学



えりも岬にはアザラシが生息している。岬の先端から海の中に岩場が点々とつながり、そこには多くのアザラシが生息している。岬にある町の施設「風の館」には、望遠鏡などの設備があり、アザラシを見ることもできるが、確認できないことも多い。しかし、海に入り点々としている岩場の近くに行くと驚くほど多くのアザラシが岩場に登り生活している。また、コンブを採るための船(ボート)で観光用に岩場の方まで見学させていただける取り組みがあるのだが、その船(ボート)は一度に6人ほどしか乗ることができない。

今年度は、4人の高学年と教員2名が船長のご厚意で、実際に乗せてもらい、普段は見ることのできない景色を見せていただくことができた。



(3) ダンボールアート体験学習

えりも町内には、独特な手法で、ダンボールを素材に作品を作り、自宅を美術館として開放している方がいる。今年度は、全校での遠足の日に、あいにくの天候となったため、途中でその美術館を見学させていただいた。子どもたちは興味津々に素晴らしい作品を見学していた。

その後、高学年での図工の学習として、その方を講師としてお招きし、制作活動を行うことができた。本物の作品を見学し、あこがれを持ったうえで、自分たちも実際に作品を制作できたことは、子どもたちの貴重な経験となった。

2 確かな学力の向上を図り、進んで学び合う子どもの育成

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の工夫を通して～

本校の児童の実態として、「学びに主体的に向かう」ことに課題がある。ICT など、どのような手段を取り入れても、その課題の克服は学力の向上に必要な不可欠と判断した。そこで初心に返り、教科リーダーを中心とした「わたりずらし」の授業の確立を中心とした校内研修を推進し授業改善を進めてきた。



(1) 目指す子ども像と研究仮説

《目指す子ども像》

- ・学年に応じた教科リーダーとしての資質を身に付け、自ら進んで学びに向かう子ども
- ・課題解決に向けて、自ら方法や手段を選んで学習に取り組む子ども

《研究仮説》

複式における授業づくりの在り方を確立することで、主体的な学びに向かう子どもが育つであろう。

(2) 研究内容

- ① 単元のゴールを確認し、学習計画を立てる。
- ② 笛舞小の授業の流れの提示
黒板やテレビに本時の授業の流れを提示し、児童が何をすればよいかわかるようにする。
- ③ 教科リーダーとフォロワーへの指導



| | 教科リーダー | フォロワー |
|-------|--|--|
| 共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に合った時間を設定できている。 ・手引きの流れに沿って進められている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を傾聴している。(最後まで聞く。相槌を打つ。相手に顔を向ける。) ・話し合いにおいて、適切な話し方で話している。(聞こえる声量。相手を非難しない言葉遣い。話し合いの話型を使っている。) |
| ステップ1 | <ul style="list-style-type: none"> ・手引きの流れに沿って進めることができている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・考えを発表したり、質問をしたりできている。 |
| ステップ2 | <ul style="list-style-type: none"> ・出た意見の共通点や相違点に着目して、みんなの考えをまとめている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他の人との考えの相違点について、理由を伴って言うことができている。 |
| ステップ3 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題から課題を考えることができている。 ・出た意見から考えを広げたりまとめたり、新たな疑問を問うたりする発言をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・根拠を基に自分の考えを言うことができている。 ・必要に応じて、メモをとったり、資料を活用したりしている。 |

IV まとめ

本校は、あと2年、令和8年度の末をもって町内の学校に統合されることが決まった。来年度からの2年間は、統合先の学校にスムーズに子ども達が入っていくことができるようにするとともに、極小規模校だからこそできること、地域と密接にかかわっている学校だからできることを推進していくこととしている。今後も本校の特徴を活かし、地域の素材を活かし、授業改善を進めていきたいと考えている。